

# 第 21 回 木津川上流河川環境研究会 議事要旨

## 【開催概要】

開催日時： 平成 24 年 6 月 12 日（火） 16：00～18：00

開催場所： メルパルク京都 5 階・会議場 A

## 【出席者】

委員： 3 名

事務局： 木津川上流河川事務所 6 名

オブザーバー： 水資源機構関西支社 2 名、木津川ダム総合管理所 2 名

## 【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

(1) 木津川上流河川環境研究会 検討経緯確認

- ・木津川上流河川環境研究会・ワーキングにおける検討経緯について
- ・前回第 20 回研究会指摘対応の確認

(2) 河道内樹林管理検討

- ・これまでの検討結果と本年度検討方針

(3) 堰・魚道 連続性再生検討

- ・縦断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度検討方針
- ・平成 24 年度 地域連携ワークショップ企画（案）
- ・横断連続性再生検討： これまでの検討結果と本年度検討方針

(4) その他

- ・本年度の研究会開催予定

4. 閉 会

## 【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料 1： 木津川上流河川環境研究会・ワーキング 検討経緯
- ◆資料 2： 第 20 回木津川上流河川環境研究会 指摘対応
- ◆資料 3-①： 堰・魚道 縦断連続性再生検討 資料
- ◆資料 3-②： 平成 24 年度 地域連携ワークショップ企画（案）
- ◆資料 4： 堰・魚道 横断連続性再生検討 資料
- ◆資料 5： 河道内樹林管理検討 資料
- ◆資料 6： 木津川上流における河川環境の変遷 整理資料
- ◆資料 7： 平成 24 年度研究会等の開催予定

## 【審議内容】

### (1) 木津川上流河川環境研究会 検討経緯確認

これまでの検討経緯および前回研究会（第20回）の議事要旨確認を行った。

### (2) 河道内樹林管理検討

事務局より、河道内樹林管理検討に関する本年度検討方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- 1) 昨年冬季に地上1m伐採した箇所、タケ類が多く再生していることについて、成功が報告されていたのは群馬県での例であり、気温・雨量などの条件が三重県と大きく違うことも要因のひとつと考えられる。
- 2) 展葉すると地下部に栄養が蓄えられて再繁茂につながるため、その前に伐採するのはよい。1m伐採区、4年連続伐採区とも、今後のモニタリングの継続が重要である。
- 3) 伐採手法はコストも含め総合的に検討していくことが重要である。現場で活用するためには再繁茂抑制効果が高い手法であっても、費用がかかりすぎると適用できない。
- 4) 今年度も冬季にメダケ林の伐採を計画しており、効果的手法を明らかにするため、試験的に伐採手法に工夫を加えていきたい。  
⇒現地をみることも重要であり、伐採手法の検討に際して、委員参加による現地踏査の機会を設けてもらうとよい。
- 5) タケノコ堀りイベントとして、市民連携で取り組むことができれば、伐採コストが縮減できるのではないかと。  
⇒タケの種類や安全管理、日程調整（タケノコ堀りの適期は非常に短く、最適な日取りを決めて事前告知するのが難しい）などの問題があり、イベントとして実施することについては、慎重に検討していきたい。

### (3) 堰・魚道 連続性再生検討

#### 1. 堰・魚道 縦断連続性再生検討に関する本年度検討方針

事務局より、堰・魚道 縦断連続性再生検討に関する本年度検討方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- 1) 淀川河川事務所との連携により、水系内全体で比較・検討できるようになっており、今後はデータを蓄積して河川ごとの遡上数の差だけでなく、その要因（河川環境の違い等）まで明らかにすることが重要である。
- 2) 天然遡上アユの分析を耳石分析からDNA分析に変更したことは、今後のコストダウンにつながるものである。放流アユの由来等に留意しながら検討を進めてほしい。
- 3) 木津川への天然アユの遡上数が少ないことがわかってきたため、アユを河川連続性の指標とすることの適切性を検討する必要もある。
- 4) 淀川大堰と三川合流点の中間地点で左右岸同時調査等ができれば、堰での左右岸の遡上数の差と、桂川・木津川の遡上数の差との関連性が明らかにできる。  
⇒左右岸比較調査はコストがかかるが、今年度は河川水辺の国勢調査が淀川水系管内全体で実施されるため、できるだけそのデータを活用し、効率的な検討を行いたい。

#### 2. 平成24年度 地域連携ワークショップ企画（案）

事務局より、名張盆地ブロックで開催予定のワークショップ企画案について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- 1) この機会に、研究会で検討してきた内容とともに、水資源機構で実施されているフラッシュ放流・土砂還元の実施状況等についても、パネル展示等で地元へ情報還元できるように検討してほしい。

- 2) あまり長時間になると参加者も集まりにくくなると思われるので、工夫しながら、意義のある取り組みとして開催できるよう進めていってほしい。

### 3. 上野遊水地 横断連続性再生に関する本年度検討方針

事務局より、上野遊水地の横断連続性再生に関する本年度検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- 1) 外来魚調査については、ミシシippアカミガメ、ヌートリア、アライグマ等、魚類だけでなく外来種の侵入状況がわかるよう調査を進めてほしい。

### (4) その他本年度の研究会開催予定

事務局より、本年度の研究会、ワーキング、ワークショップの開催時期・内容の予定について説明を行った。

以 上